

## 2026年度 第2回 教育課程連携協議会 議事要旨

- 開催日時：2026年3月19日（木）15時00分～16時00分
- 場 所：オンラインビデオ会議システムによる
- 出席者：千住学部長、山内理学療法学科長、種村言語聴覚療法学科長  
河津作業療法学科長補佐  
滋賀県医師会 高橋会長（委任）、滋賀県理学療法士会 平岩会長  
滋賀県作業療法士会 木岡会長、滋賀県言語聴覚士会 佐敷会長（委任）  
東近江市地域包括支援センター 河島センター長  
BOHグループ 介護事業部統括本部 杉原教育マネージャー（委任）  
市立長浜病院リハビリテーション技術科 西村主幹（委任）  
滋賀県立リハビリテーションセンター 乙川主任主査
- 陪席者：角野学長、北川事務局長、岩崎センター長代理
- 欠 席：山本学長特別補佐

議事に先立って、角野学長より挨拶が行われた。

また、2026年3月末をもって本学学長を退任し、2026年4月より同法人の藍野大学学長に就任することについて報告が行われた。

### 1. 議 事

#### (1) 審議事項

##### ① 教育課程について

各学科長よりそれぞれの教育課程の特色等について概要の説明が行われた。

乙川委員より)

教育課程連携協議会より提案され、教育課程に取り入れられた「データサイエンス入門」と「ICT活用論」について、実際の臨床現場においても重要な内容であるが、授業の具体的な内容と学生の理解度について状況を教えていただきたい。

種村言語聴覚療法学科長より)

「データサイエンス」について、基本的には統計を学ぶことを根底としてある。様々

なデータについて統計アプリを利用し、データの扱い方や基本的な知識を身に付けられる授業を実施している。

学生は日頃からスマホやタブレット等を使用しており、電子機器の操作に慣れていることもあって、統計アプリの操作など、楽しみながらすぐに扱い方を理解できているようである。

「ICT活用論」については2026年度からの開講科目であるため、学生がどれだけ理解できるかは未知数ではあるが、ICT機器の基礎からリハビリ職の現場での活用方法まで学べる内容となっている。

平岩委員より)

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3職種については医療が基盤となっており、共通して知っておくべき知識というものがある。

3学科を横断して学生が学べる科目はあるのか教えて欲しい。

種村言語聴覚療法学科長より)

基礎科目と展開科目の中に3学科共通して合同で学べる科目を配置している。

また、言語聴覚療法学科においては「リハビリテーション医学」において、3学科の教員が担当し、リハビリテーションにおける各職種の役割を知り、理解を深める授業を実施している。

山内理学療法学科長より)

展開科目では全学科学生対象に必修として「協働連携論」を開講しており、リハビリテーションアプローチの実際について、多職種と検討し、解決策を考える授業を実践している。

## ② 2026年度 教員編制について

千住学部長より、2026年度の教員編制について概要の説明が行われた。2025年度末に退職する教員と2026年度から入職予定である教員がいることを踏まえて、法令等に定められた教員数を満たしており、教育活動に十分に耐えうる教員編制であることが報告された。

各委員より教員編制について、意見や質問は無かった。

## (2) 報告事項

### ① 2024年度 教育活動実施状況 報告

各学科長より今年度の教育活動状況、国家試験、就職、次年度の入学者数等の報告とともに以下について報告が行われた。

#### 理学療法学科)

在学生を対象に実施した学修行動調査において、本学に対する学生の満足度については概ね良好な結果が得られたが、特に1、2年生において自宅等における授業時間外の学習時間確保に課題があることが分かった。

学生への指導の中で家庭などによる学習時間の重要性について理解を図っていきたい。

#### 作業療法学科)

昨年度より退学者が少し増えている。退学理由として体調不良や経済的理由、進路の変更が上げられる。

作業療法学科としては、成績不良者や進路に悩む学生と密に面談等を実施し、リハビリテーション職への意欲向上や問題解決へのアドバイスなどを丁寧に行っている。

次年度は退学者をできる限り少なくなるよう、教員間での情報共有も強化し対応していきたい。

#### 言語聴覚療法学科)

2年生の男子学生1名が残念ながら、進路変更を理由に退学となっている。

1年生の学生1名について必修科目の単位を取得できず、4年間での退学は出来なくなったが、本人は在学継続の意思があり、退学者が出ていない。

### ④ 機関別認証評価の受審について

岩崎事務センター長代理より、大学が7年に1度、受審を義務付けられている機関別認証評価を2026年度に受審する予定である。

5月中には自己点検評価書等の審査書類を審査機関に提出し、10月に実地調査が行われる予定である。

2年前に受審した分野別認証評価においては、実地調査において実習施設の担当者インタビューが行われた。機関別認証評価において実習施設担当者へのインタビューが実

施されるかは不明であるが、実施するとなった場合はご協力をお願いする場合があるため、その際にはご理解・ご協力のほど、よろしくお願ひしたい。

### (3) その他

河島委員より)

理学療法学科の展開科目においてスポーツに係る科目を設定されているが、スポーツに係る科目の取組の概要と成果、課題などを教えていただきたい。

山内理学療法学科長より)

本学科では開学当初から地域共生とスポーツを2枚看板として掲げている。

スポーツに関しては生涯スポーツをテーマに子供を対象としたリズムトレーニングを学ぶ機会や、成人や高齢者を対象としたランニングトレーニング論やエネルギーパフォーマンス論といった科目を設けている。

野球の大リーグやNPB、サッカーのJリーグやその他の競技において理学療法士が係わる事が多くなり、その重要性も認知されてきている。本学科としてもそれに対応できる知識と技術を身に付けてもらうよう授業を実施しているところである。

木岡委員より)

理学療法学科の報告の中で、学外における勉強時間が少ないとの報告があった。

学年が上がり、現場での実習が始まる頃には学生も自覚をもち、勉強時間もおのずと増えてくると思うが、1年時からでもリハビリテーション職に意識を持ってもらい、モチベーションを上げていくことができればなど考える。

展開科目等で多職種の内容を学んで、地域を見据えられる学生教育を引き続き継続していただきたい。

以上